

「新学習指導要領における外国語のあり方」

～移行期に取り組みたいこと～

田中・本多・尾崎・五嶋

今後「外国語」の授業づくりのために意識していく点

- ・「言語活動を通しての指導」の意味を理解する
- ・教師の英語力の向上 (積極的に英語を話す)
- ・小中連携を考えた授業づくり



外国語活動と外国語科では、目標に示された資質・能力を、言語活動を通して育成する。言語活動とは、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動である。必要に応じて、理解や練習のための指導を行う。「聞くこと」などのインプットの活動から「話すこと」などのアウトプットの活動の流れが大切である。外国語科においては、「読むこと」や「書くこと」の言語活動が導入される。コミュニケーションの目的や場面、状況を明確に設定したり、工夫したりすることが重要である。語句や表現を書く活動については、例を参照しながら書き写すことを行うものとする。

授業の中で、コミュニケーションポイントを意識する

5・6年生の読むこと・書くこと

- 今まで…
- Eye contact
 - Smile
 - Clear/Big voice
 - Gesture



- これから…
- Reaction
 - Response
 - ふわふわ言葉

- ・「読むこと」「書くこと」の目標は、「聞くこと」「話すこと」に比べ、低い目標になっている。
- ・新学習指導要領から、中学校でのアルファベットの文字指導は行わない。⇒今の4年生以下は、小学校でアルファベットを習得させる。(各寄市では、今の5年生からとしています。)

Small Talk について

OSmall Talk は・・・ “ライブ・本当のことを言えるから楽しい”

“その場で何が出てくるかわからないから楽しい” と子どもたちが感じる事ができる。

Small Talk のわらい

- できるようにする
- 子どもが伝えたいことを伝え合えるようにする
- その場でやり取りができる力をつける

Small Talk の進め方

- ①指導者と子どもで簡単なやりとりを行う ☆言い出し方の提供
- ②児童と児童のやりとり ☆まずやらせる
- ③指導 ☆言えなかったことを既習表現に結び付ける
- ④相手を変える ☆既習表現を活用させる

「今まで習ったものをどうしたら使える？」かを考えさせる…



5年生…インプット中心・指導者と子ども中心

6年生…子ども同士のやりとり中心

指導要領の目標について

- 3・4年生…文末「～するようにする」
 - 5・6年生…文末「～できるようにする」
- 活動と教科の大きなちがい

※「読むこと・書くこと」では、音よりも先に読み書きが先行しないように工夫する